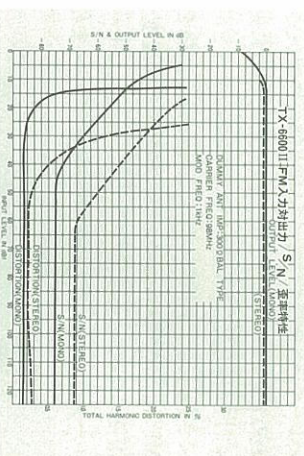
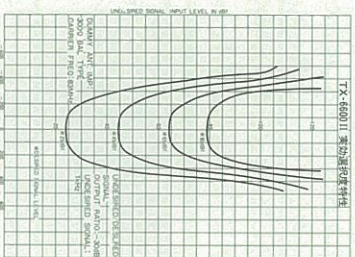


PLL MPX方式
AM/FMステレオチューナー
TX-6600II
¥27,800

パイオニア開発の専用IC採用のIF部。同調特性を向上させた音質重視の設計。 受信性能を高め、ひずみを抑えた充実設計のステレオチューナー。



と同一周波数に不要電波があっても1dBレベル差があれば、これを抑えて混信による音質の劣化をほとんど感じさせません。また、この回路では5段のリミッターがかげられ波形の整形が行なわれますから、AM抑圧比も50dBと高く、AM成分の雑音も大きく低減しています。こうした諸特性の高さによって音質は美しく磨きあげられ、ステレオ時のひずみ率は0.3%以下(1kHz)です。S/N比も68dBの高さを確保しています。



選択素子には2素子セラミックフィルターを2個使い、妨害波や混信を抑えています。



IF段には、合計200素子分以上の要素を1個にまとめた、パイオニア開発のIF専用高集積度ICを使用しています。

た選択素子には、位相特性のすぐれた2素子セラミックフィルターを2個採用しています。これによって実効選択度特性は60dBと高く、相当に強い隣波の妨害があっても、音質に影響を受けにくいことがほとんどあります。しかもキャパチエレンスは1.0dBのすばらしい値ですから、受信局

ステレオチューナーという点、とにかく受信性能ばかりを重視しませんが、TX-6600IIはすぐれた受信性能と同時に、美しい音質による音楽再生を狙いとした、音質重視の設計が大きな魅力です。またTX-6600IIは、高精度をしのばせる精緻で洗練されたデザインも見かせない魅力になっています。メタリックベースのダイヤルスケール面は、リフレクトライテイング方式による柔らかな均一な照明。高級感に満ちた美しさです。

高感度と高い妨害排除能力を持つ、3連バリコンとFETによるFMフロントエンド。

FM放送の電波は、複雑な空間を伝わるのですから、場所によっては極端に電波の弱いFM難聴地

域と呼ばれる所も生まれるわけです。こうした地域での受信は、何といっても高感度であることが最大のきめ手になります。また、都市部などでは、放送の電波は十分に強くても周囲に強力な妨害波が多く、これが音質に悪影響を与えます。すぐれたフロントエンドはこうした様々な地域で、狙った電波だけを確実にキャッチする、高感度と高い妨害排除能力を持っていてはなりません。TX-6600IIのフロントエンドは、雑音指数の低いFETと周波数直線型の3連バリコンで構成した、高周波1段増幅つきの回路です。このフロントエンドによって実用感度は1.9μV(IHFモノ)の高さ、妨害波の排除能力も高いものとなっています。

IF段にはパイオニア開発の専用高集積度IC。

TX-6600IIの規格

回路方式	FET RF1段、3連バリコン5段 リミッター、オキトラチューブ検波
PLL MPX	
S/N500B感度	モノ.....2.8μV、新HF14.00Bf
実用感度	ステレオ.....44μV、新HF38.00Bf
S/N	モノ.....1.9μV、新HF10.70Bf
高調波歪率	モノ.....68dB ステレオ.....0.15%(100Hz)、0.15%(1kHz)、0.25%(10kHz)
キャパチユアレンジョン	ステレオ.....0.3%(100Hz)、0.3%(1kHz)、0.6%(10kHz)
実効歪率	モノ.....1.0dB
周波数特性	1kHz.....40dB 30Hz~15kHz.....30dB 20Hz~15kHz.....±0.5dB
イメーシオノ比	モノ.....60dB
AF抑圧比	モノ.....75dB
サフキヤリア比	モノ.....62dB
チューニング動作レベル	モノ.....1.7V(10dB)
(AM部)	300Ω平衡型、15Ω不平衡型
回路方式	非同調RF1段、2連バリコン
実用感度	外部アンテナ.....300μV/m 内部アンテナ.....15μV
選択度	S/N.....35dB
イメーシオノ比	モノ.....50dB
AF抑圧比	モノ.....40dB
サフキヤリア比	モノ.....70dB
(出力部)	レベル/出カインピーダンス
F1M(100%変調)650mV/4.6kΩ
AM(30%変調)150mV/5.4kΩ
(使用半導体)	
FET1
IC3
トランス8
ダイオード9
(電源部・その他)	
電源電圧100V、50/60Hz
消費電力(電気用品取締法)12W
外形寸法380(W)×139(H)×322(D)mm
重量5.6kg

AMセクションは、高集積度の専用ICが採用されています。このICは、入力が強弱があっても常にほぼ一定の動きをさせるAGC特性がすぐれていますから、強電界地域でも弱電界地域でもひずみ感の少ない、安定した美しい音質です。

ポットノイズ、そして局間でのノイズなど耳障りな雑音が多いものです。そのほか電源ON-OFF時やセレクトスイッチ切換え時のクリック音も気になります。TX-6600IIでは、こうしたわずらわしい雑音をカットするため、トランススター3石構成のミュージック回路を内蔵しています。これによって雑音が低減され快適な操作が楽しめます。

ダイアルスケールは実効長200mmのロングスケール。チューニング機構には慣性性能の良い大型フライホイールが使われています。



精度の高いメタリックベアスダイアルスケールは、実効長200mmのロングスケールですから、正確度の高いチューニングが可能で、チューニング機構はハイクラスなチューナーと同様に慣性性能の高い大型フライホイールを採用し、実

にスムーズな指針の動きをつくり出しています。

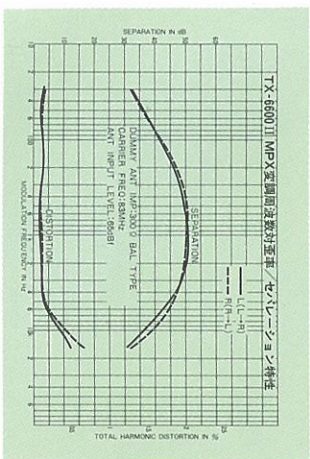
AMセクションも高集積度ICによって、電波の強弱があっても美しい音質を保ちます。

のセラミックフィルター間にトランスター1石の段間アンペアを設け、利得を上げて平坦な位相特性を確保しました。これによって同調特性を向上させ、多少の同調ずれがあってもひずみの増加やセパレーションの劣化を抑え、音質への影響を極小にしています。またこの回路によって、大入力時のひずみ特性を改善し感度も向上させています。

MPX部には、セパレーション特性を安定させ美しいステレオ放送を再現する、PLL回路の専用ICとローパスフィルターを採用。

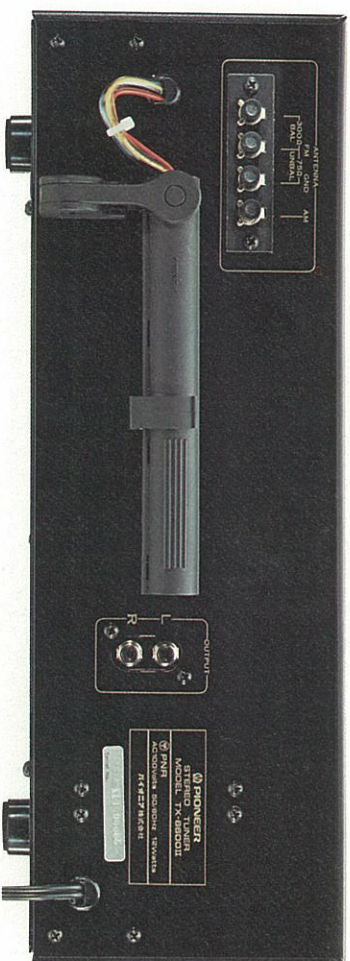
FM放送の楽しさは、何といっても美しい音質でステレオ音楽が受信できる点にあります。ですからステレオチューナーでは、このステレオのセパレーション特性を決定するMPX部の性能が重要になります。TX-6600IIではこのMPX部に、PLL回路の専用ICを使用しています。PLL回路は温度や湿度に影響されやすいMPX部のセパレーション特性を、高度に安定させるすべた方式です。これによってTX-6600IIのセパレーション特性は非常に安定し、美しいステレオ放送を再現します。

さらにローパスフィルターとして5素子構成の本格的ICフィルターを採用。これにより周波数特性を向上させ、サブキャリア比62dBを得ています。また、ひずみ感のないステレオ再生ができます。



効きの良いFMミュージック回路。スイッチ切換え時のノイズも低減するトランスター3石構成。

FM放送のチューニングでは、同調時や離調時の



JA-T1 FM専用アンテナ ¥4,000

FMの音質を大切にされた、中・強電界用FM専用アンテナです。位相差給電方式による優れた指向特性、小型で壁掛け、取付場所を選ばない2素子アンテナです。●75Ω、300Ω共用。